

第 67 回 日本生殖医学会学術講演会・総会

0 - 152

神奈川, 2022. 11. 03-04

着床前胚染色体異数性検査 (PGT-A) 選択に対する夫婦の考え方について  
～動画視聴時のアンケートを通じて～

太田恭子<sup>1</sup>、山手志保<sup>1</sup>、浅井麻利子<sup>1</sup>、皆吉田津子<sup>1</sup>、庵前美智子<sup>1</sup>、中野達也<sup>1</sup>、山内博子<sup>1</sup>、中岡義晴<sup>1</sup>  
森本義晴<sup>2</sup>

<sup>1</sup>IVF なんばクリニック

<sup>2</sup>HORAC グランフロント大阪クリニック

### 【目的】

当院では 2020 年 1 月より PGT-A 多施設共同研究に参加した。当初 PGT-A を考慮する夫婦に対して対面にて説明会を実施していたが、COVID-19 の影響を受け、対面から説明動画の視聴による情報提供に切り替えた。夫婦は視聴後に臨床遺伝専門医のカウンセリングを受け、臨床研究に参加する。今回、動画視聴が PGT-A の理解に繋がり、納得した選択を行えているか、PGT-A を選択する上での心配や不安について把握することを目的とした。

### 【方法】

2020 年 10 月から 2021 年 11 月に PGT-A を希望した夫婦 100 組に臨床研究の一環として無記名自記式質問紙法アンケートを行った。動画視聴前後での PGT-A に関する理解度を確認するため、アンケートは動画視聴前後に記入する方式とした。夫婦別々に回答を求め、夫婦間での考え方の違いも検討した。

### 【結果・考察】

有効回答率は夫 58%、妻 62%であり、年齢別、夫婦間での大きな認識のズレはなかった。動画内容は全体の約 8 割以上が役に立ったと回答し、視聴が PGT-A に対する理解を深め、選択する上で有効であるとわかった。PGT-A に対する不安について、妻は移植可能胚獲得の有無、夫は移植、妊娠の可否に不安を感じる傾向がみられた。適応別での違いは、流産既往患者は移植可能胚の有無、反復 ART 不成功患者は移植可能胚の有無に対する不安とともに妊娠の可否に対する不安も訴えていた。自由記載には、不安はあっても納得いくまで治療を続けたいと訴えるものが多くみられた。夫婦は不妊治療には限りがあることを理解し、治療期間を有効に使いたいと前向きに PGT-A を選択しており、PGT-A そして不妊治療を「二人の治療」と捉えていることがわかった。

### 【今後の課題】

夫婦が PGT-A の選択を後悔することなく、PGT-A に対する希望と現実を受け止められるよう、フォローしていく重要性を感じた。PGT-A を選択実施したその先の思い等今後も調査を継続していく。